◇ユク・ドンハン春川市長など春川市の代表団は、2025年4月11日に姉妹都市である日本の防府市を訪問し、池田豊市長を表敬訪問して交流再開に合意した。この場にはリュ・ジョンス元春川市長も同席した。

春川市と日本の防府市、50年の友情の新たな出発

「交流50年」平和・協力の道のり

-1975年、韓日親善陸上交流競技大会で初の縁
-1991年、姉妹都市協約を締結し、文化・青少年交流を継続
-“韓日の市民外交…未来世代のパートナー関係を継続”

江原特別自治道春川市と山口県防府市は、今年で交流50周年を迎え、新たな50年の友情に向けて歩みを進めている。両市は過去半世紀にわたり、スポーツや文化、青少年交流を通じて信頼を築いてきたが、最近17年間の長い断絶を乗り越え、再び手を取り合った。過去の思い出と今日の誓い、そして未来世代への希望が一つとなり、新たな50年の道を開いている。この道は両市だけのものではなく、韓日両国が地域から平和と協力の文化を広げていく道のりであり、過去を振り返り未来へ共に進もうとする意志の表れでもある。

■スポーツから始まった最初の縁

春川市と防府市の交流は、1975年の第1回韓日親善陸上交流競技大会にさかのぼる。若い選手たちが走った競技場は、単なるスポーツの舞台ではなく、両市が心を開き、友情を分かち合う出発点となった。大会は毎年交互に開催され、両市の青少年が汗と情熱を分かち合い、その経験が自然と友好の土台となった。そして1991年10月、両市は公式に姉妹都市協約を締結し、未来を共にすることを約束した。

2006年10月18日午前、春川芸術広場アートプラザギャラリーにて、春川市と日本の防府市の文化芸術交流展が開幕した。式典にはキム・ヨンジン副市長、ペ・ドンウク陶芸総会長、チョン・テウォン春川芸総会長など春川市の芸術家たちと防府市の訪問団など約70人が参加した。

2007年7月21日、春川市を訪問した日本の防府市の小中学生交流団（団長：古屋博信大道小学校長）は、キム・ヨンジン春川副市長を来訪し、記念品を贈呈した。交流団は24日まで施設見学や伝統文化体験など、韓国文化を学ぶ機会を持った。(パク・スンスン)

■多様な交流と、しばし止まった時間

姉妹提携後、両市は青少年交換、学生交流、議会間交流、文化芸術交流など、多方面で活発な交流を続けてきた。特に韓日文化芸術交流展は、美術、写真、工芸、書道など多様な作品を毎年両市で交互に展示し、互いの文化を理解し尊重する場となった。市民が共に参加する行事は、単なる外交的儀礼を超え、真の「人と人」の交流へとつながった。

しかし、交流は順風満帆ではなかった。2001年の日本の歴史教科書問題、2005年の「独島の日」条例制定、2008年の独島領有権主張などにより、春川市は日本の姉妹都市との交流を中断した。特に2008年から続いた17年間の断絶は残念な時間であったが、同時に再会を願う気持ちを一層深める時間でもあった。

■交流再開に向けた絶え間ない努力

交流の火種を再び灯すための努力は、着実に続けられた。昨年、春川市は代表団を日本の防府市に派遣し、交流再開の意向を伝えた。ヒョン・ジュンテ副市長が率いる代表団は、池田豊防府市長を表敬訪問し、ユク・ドンハン春川市長の親書を伝達した。親書には、長い待ち時間の分、今後の交流をより真摯かつ持続可能なものにしていきたいという意志が込められていた。この場で両市は、子ども文化祭、国際絵画交流展、マラソン大会への相互招待、青少年サッカー交流など、具体的な協力策を議論した。

こうした過程は、2025年4月11日、防府市役所で開かれた友好交流合意書署名式で実を結んだ。署名式には両市の市長をはじめ、韓国総領事館や元・現職の主要関係者が出席し、その意義を深めた。

◇ユク・ドンハン春川市長（写真左）は、2025年4月11日午前10時に日本の防府市役所で開かれた防府市との交流再開署名式を終え、池田豊防府市長に書道作品「百年之友」を贈呈した。

■「百年之友」、変わらぬ友情の象徴

署名式でユク・ドンハン春川市長は、ファン・ジェグク江原大学名誉教授の書道作品「百年之友」を贈呈した。百年間変わらない深い友情を願う意味が込められたこの作品は、両市が今後も揺るぎない協力を続けていくという誓いの象徴となった。池田豊防府市長は50年前の最初の陸上大会にボランティアとして参加した記憶を語り、ユク・ドンハン市長は高校時代に新聞紙面でその大会の記事に触れた経験を分かち合った。過去の思い出が現在の約束につながる瞬間、両市は過去と現在、未来を一つにする真の共感を確認した。

リュ・ジョンス元春川市長の出席も意義深かった。彼は民選3期時代に両市の姉妹提携と交流基盤の構築に重要な役割を果たした人物であり、今回の行事で再び両市の和合を目の当たりにし、感慨を述べた。過去を支えた人物が現在の合意の場に同席したことは、交流の歴史と連続性を象徴的に示している。

■未来世代をつなぐ新たな50年

再開の出発点は未来世代である。今年8月、春川の青少年公演団が防府市の子ども文化祭に参加した。南春川女子中学校のナンタ部と江原カヤグム青少年演奏団が韓国の伝統打楽器とカヤグムの演奏を披露し、これは単なる公演を超え、両市の青少年が互いの文

化を直接体験し理解する意義深い場となった。青少年交流は、両市が今後も続けていくパートナーシップの最も重要な基盤として位置づけられるだろうという期待感を抱かせるのに十分だった。

続いて9月には春川で「ジャパンウィーク」が開催され、市民が日本文化に身近に触れる機会が設けられた。10月には春川で開かれる韓日文化芸術交流展に防府市の代表団が招待され、再び芸術を媒体とした交流も続いた。これらの計画は、両市が単なる象徴的な交流にとどまらず、市民が直接体感できる実質的な交流を目指していることを示している。

◇春川市と日本の防府市との交流の始まりを伝えた1975年9月3日付の江原日報4面。「春川体育会と姉妹提携　日本の防府市　陸上交流競技　第1回　日本で開催確定[10月26日]-77年大会は春川で」という見出しが目立つ。江原日報DB

■交流の意味と今後の課題

春川と防府の交流は、単なる地方都市間の交流史ではない。それは両国の市民外交の歴史であり、地域から始まった友情が国家間の関係にも肯定的な影響を与え得るという可

能性の証である。50年の足跡と17年の空白、そして再びつながった現在は、すべて交流の意味をより深く、価値あるものにしている。
ユク・ドンハン春川市長は「今回の合意が、過去50年の友情をつなぎ、これからの50年を切り開く新たな出発点になることを願う」と述べた。さらに「未来世代を中心に文化とスポーツの交流を拡大するという意志は、両市が単に過去の縁を記念するだけでなく、未来のパートナーとして共に進んでいくという約束だ」と強調した。